

吸引作業

- ① 負荷解放弁を『開』にする
- ② 切換弁①②③を『吸引』にする
- ③ P T Oを入れる
- ④ スロットルで、エンジン回転を 1,350~1,550rpm にする
- ⑤ 吸引バルブを『開』にする
- ⑥ 負荷解放弁を『閉』にする
- ⑦ **吸引開始**

《4次水の水量・ブロワ循環水の流量チェック》

真空圧力は最高-96MPa

<作業終了>

- ① 負荷解放弁をゆっくりと『開』にする
- ② 真空圧が-30kPa 以下になったら
スロットルでエンジン回転を完全に戻す
- ③ 吸引バルブを『閉』にする
- ④ P T Oを切る

<注意>

- ① 3次キャッチャーの水が増えた場合は、作業を中断して下さい。
- ② 4次キャッチャーの水切れに注意して下さい。

ダンプ排出作業

⚠ タンク可動範囲内の安全を確認！

- ① ハッチロックを解除する
- ② 負荷解放弁を『開』にする
- ③ 切換弁①②③を『吸引』にする
- ④ PTOを入れる
- ⑤ スロットルで、エンジン回転を1,000～1,200rpmにする
- ⑥ ハッチレバーを上げ、ハッチを全開にする
- ⑦ ダンプレバーを上げ、ダンプを上昇させる

<作業終了>

- ① ダンプレバーを下げ、タンクを下降させる
- ② ハッチレバーを下げ、ハッチを閉じる
- ③ ハッチロックをかける
- ④ スロットルでエンジン回転を完全に戻す
- ⑤ PTOを切る

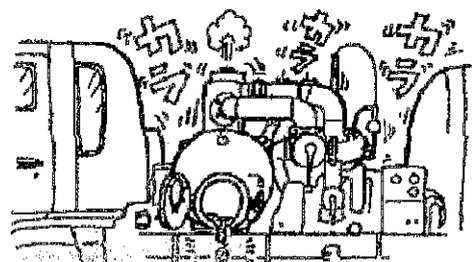
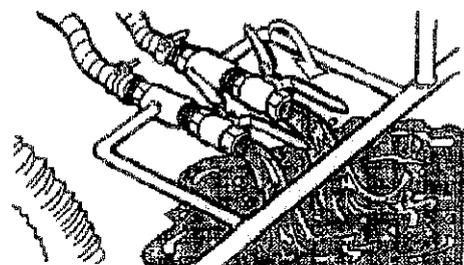
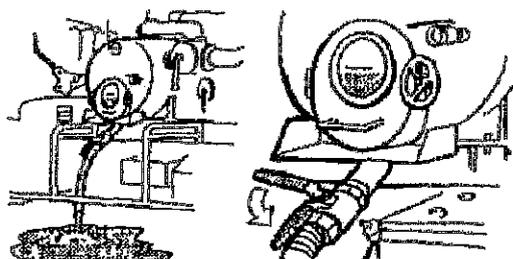
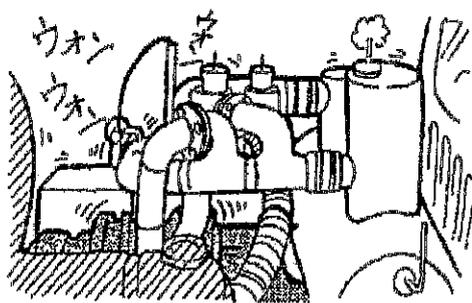
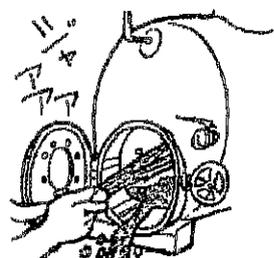
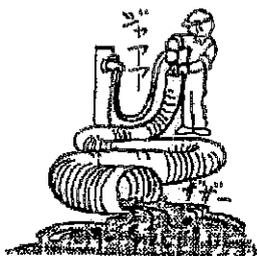
圧送排出作業

- ① 負荷解放弁を『開』にする
- ② 切換弁①②③を『吸引』にする
- ③ PTOを入れる
- ④ ハッチロックが完全にかかっているか、確認する
- ⑤ 排出バルブを『開』にする
- ⑥ スロットルで、エンジン回転を 1200～1400rpm にする
- ⑦ 切換弁を①②③の順にゆっくりと『圧送』にする
- ⑧ **圧送開始** 《 15 分以上の連続作業禁止 》
圧送圧力は最高 0.07MPa

<作業終了>

- ① 切換弁を③②①の順にゆっくりと『吸引』にする
- ② スロットルでエンジン回転を完全に戻す
- ③ 排出バルブを『閉』にする
- ④ PTOを切る

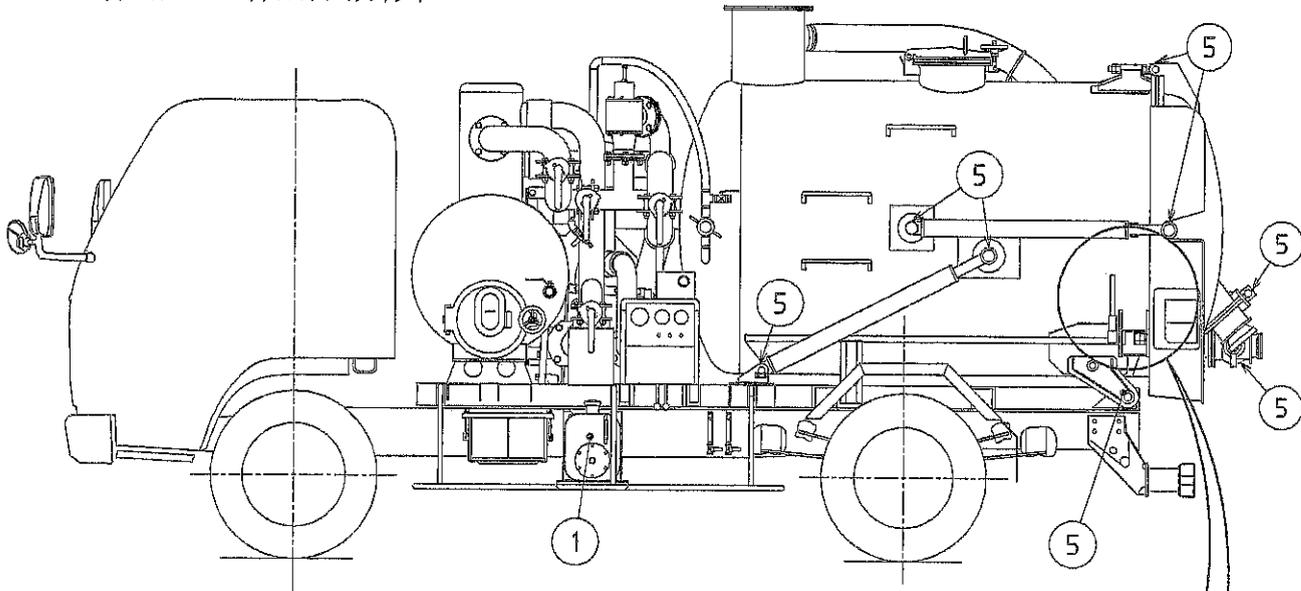
■終業点検



1. 作業ホースの洗浄を行ってください。
2. レシーパータンク、各キャッチャーの排水を行い、内部を清掃してください。
3. ブロワ内の洗浄
 - ① 4次キャッチャーに、清水を規定の水位まで入れてください。
 - ② 吸引操作を行い、真空圧が -50kPa ～ -60kPa となるように負荷解放弁を閉めて調整し、清水をブロワに循環させてください。
(約10分)
 - ③ 4次キャッチャーの水を排水してください。
4. 各キャッチャーの水を排水してください。
5. 各ドレンバルブを開き、水抜きをしてください。
6. ブロワ循環水を抜いた後、ブロワを約5分間空運転してください。
(ブロワ水切り)

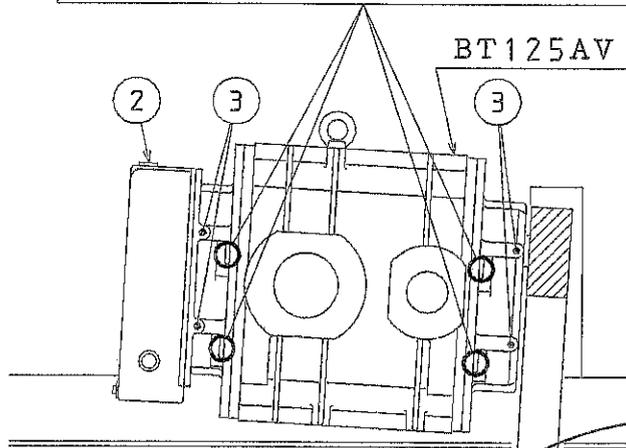
保守・点検は必ず行ってください。また、定期的に当社技術サービス担当者、もしくは指定サービス工場にて点検を受けてください。

■給油・給脂場所

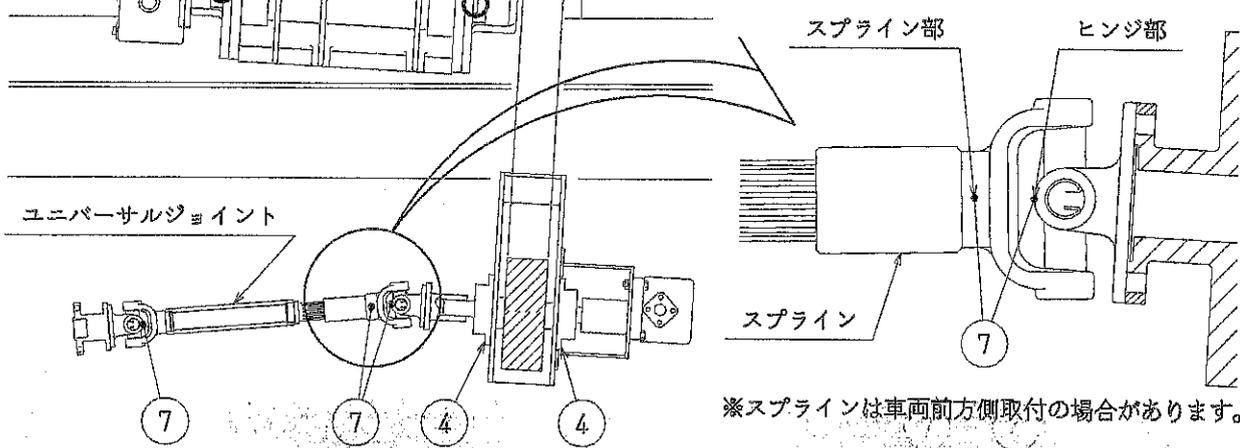


ハッチロック
(両側)

注意) ブロワベアリンググリス給脂後、
余分なグリス除去が必要です。
ブロワ取扱説明書を参照ください。



※(3)(4)は機側より
集中給脂ができます。



※スプラインは車両前方側取付の場合があります。

■給油・給脂表

※油脂の交換・補給の量、又、時期については下表を参考にしてください。

※油脂の種類については表記されたものを使用してください。

※オーバーフローしたオイル・グリスは、きれいにふき取ってください。

	①作動油	プロワ (アンレット製)		④軸受	⑤各ヒンジ ⑥ハッチロック ⑦ユニバーサル ジョイント	⑧等速ボール ジョイント	
		②オイル	③グリス ※5				
交換 ※3※4 補給時期	初回3ヵ月・300h 1年毎・1000h毎	6ヵ月毎 2000h毎	3ヵ月毎 1000h毎	1ヵ月毎 100h毎	1ヵ月毎 100h毎	2年毎 2400h毎	
交換 補給量	4ト以下:20% 5~8ト:40% 9ト以上:60%	TM:1.4% MP:1.8% SM:2.4% SP:5.5% SQ:6.0%	TM: 8g/カ所 MP:11g/カ所 SM:13g/カ所 SP:30g/カ所 SQ:40g/カ所	グリスガン にて20回/カ所	グリスガン にて10回/カ所	本体内70g ブーツ及フランジ 空間部は容積の 約1/2 /カ所	
要領	交換	交換	給脂	給脂	給脂	交換	
区分	R&Oタイプ※1 油圧作動油 ISO VG 32	極圧型 ※2 ギヤー油 ISO VG 460	ころがり 軸受用汎用 グリス	ポリウレア系 耐熱用 グリス	ポリウレア系 耐熱用 グリス	ころがり 軸受用汎用 グリス	等速ボール ジョイント用 グリス
出荷時充填	テラス S2 M 32	オマラ S2 G 460 S2 GX 460	ANG3D		スタミナEPグリス2	※下参照	
シェル ルブリカンツ	テラス S2 M 32	オマラ S2 G 460 S2 GX 460	アルバニヤ グリスS3 (スタミナEP グリス2 使用可)	スタミナ グリスRL1 スタミナEP グリス2	スタミナEP グリス2	アルバニヤ グリスS2 (スタミナEP グリス2 使用可)	
コスモ	オルパス32	ギヤーSE460	ダイナマックス No. 3			ダイナマックス No. 2	
ENEOS	ハイランド ACT32	ボンノック TS460	マルティノック グリス2	マルティノック ウレア		マルティノック グリス2	
出光	ダフニー ハイドロリック フルイド32	ダフニー スーパーギヤー オイル460	ダフニー エポネックス グリス NLGI No. 3			ダフニー エポネックス グリスNo. 2	
エクソン モービル	テレソ32 DTEオイルライト	モービルギヤ 600XP 460	モービリス SHC100			ビーコン2 リスタン2 モービラックス2	
協同油脂			シトラックス SP No. 3	マルテンブ ET-100K マルテンブ ET-C		シトラックス EP No. 2 <NTN製> NKG814	
カストロール						<NKN製> モラプアロイ 777-ES2	
アンレット				ANG3D			

※1. 沖縄地方ではISO VG 46を使用してください。 ※2. 冬期及び寒冷地ではISO VG 220~320を使用してください。

※3. 使用期間と運転時間を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で給油または給脂をしてください。

※4. 交換・補給時期は推奨期間を示します。使用する環境状態によっては、給油・給脂時期の短縮も必要です。

※5. SQ及び高温場所での作業や高負荷連続運転等により、プロワ本体温度が高温になる場合はポリウレア系グリスをご使用ください。交換時は全量交換してください。出荷時はアンレットANG3Dが充填されています。

《2022.06.14 改訂》